

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	をりをり
Author(s)	石崎, 正雄
Citation	龍南, 209: 22-22
Issue date	1929-02-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/9052
Right	

をりをり

石 崎 正 雄

木の間もれて室にさし入る冬の陽のわがほゝを撫づるほ
のぬくさかな

日うららかに野山かすめり一月の青空に早や春かゞやく
も

人と共に笑はんとはすれど笑ひ得ぬわがひととなりをあ
はれみにけり

床に入れば物事のみぞ思はるるこの頃のわれのねつきわ
ろきかも

歌よむてふ國語教師のほほひげのむさきを見つゝなつか
しと思ふ

教室の窓より見ゆる龍田山と森のみどりと空の青さと

東西屋の鐘の音なつかしく響き來ぬわれ山上にひとり寢
居れば

夕風に團平船オキナボネの沖仲仕オキナボネのしづかなるうたあはれにひびく

町中に煙どす黒くたなびけりこの中に働ける人は多しも

夏陽入らず冬さり來れば南日のさすわが部屋のものし
きかな

稻刈られて麥萌えをめし黒き田に雲雀なくなりいつくに
や居る